

伊吹山を守る自然再生協議会協議事項（提案）

伊吹山入山協力金制度導入 10 年に向けたプロジェクト会議による検証について

米原市 市民部 自治環境課

【提案の趣旨】

H26 年（2014 年）に入山協力金導入を開始してから、R5 年（2023 年）で 10 年目を迎えます。

入山協力金の当初導入計画では、「①公的資金だけに頼らない持続可能な自立システムの構築」「②受益者負担制度の原則と入山者の環境意識の向上」「③地域の雇用創出」「④植生回復」「⑤質の高いサービス提供」という 5 つの目標が掲げられていました。関係各位の御尽力により、これらの目的は達成された部分もあれば、達成されていない部分もあり、特に「①持続可能な自立システム」と「④植生回復」に関するプロジェクト会議を設置し、今までの取組の評価と今後の方針決定のため、必要な試験事業を実施しながら、1～2 年程度で課題を検証していきたいと考えています。

【①持続可能な自立システム（入山協力金制度検証）会議】

課題：多様な寄付集めによる寄付額アップ（ウェブサイト等の広報手段の検討）

入山協力金の在り方の検証（自動券売機による返礼品の提供等の検討）

業務執行・管理体制の明確化・多角化（事務局体制の検証、事業執行体制の明確化）

会議の見込回数：5 回程度（秋 9 月頃から。可能であれば年度内にとりまとめた）

【②植生復元プロジェクト会議（3 合目・山頂）】

課題：柵の設置・管理計画（山頂・3 合目）

外来種等繁殖地、植生の復元方法（山頂）

複数年度計画（必要性、困難さ、コスト、全山域での貴重種保全に向けた寄付の在り方検証等、

複数の要因を鑑み複数年度計画の作成）

会議等の見込回数：10 回程度（現地 5 回、会議 5 回。2 年にまたがる見込み）

※上野口からの登山道（県道伊吹山上野線）のある南面 5～9 合目をはじめ、全山域でシカの増加と大雨等により土壌保全の必要性が高まっています。

土壌保全対策、シカ捕獲事業については、当協議会に諮りながら、専門部署を中心に対策の検討・実施を進めていきたいと考えています。